

広報

のぼるべつ

主な内容

- あけましておめでとうございます ◎新年のごあいさつ 市長・市議会議長 ◎今年にかける夢と抱負 2・3 P
- 日本電子工学院の誘致決定； 4・5 P
- 学園都市構想を新しい街づくりの柱に 6・7 P
- 随想 この道は 中村肆基氏 8 P
- 郷土史探訪 9 P
- 建設ニュース 10 P

○No. 294 ○昭和55年1月1日発行 ○編集発行/北海道登別市/総務部公聴広報課 ○印刷/中西印刷



はばたけ

未来へ

1980
1.1 ~ 1.15 合併号

札内地区上空から登別地区、太平洋を望む

あけまして おめでとう

今年、サル(申)年です。サルという言葉は、どうもあまりいい意味では使われていないようですが、サルを魔よけ、安産、子育て、盗難よけの守り神としている地方もあり、ありがたい動物とも言えそうです。

今新春号では、エトにあたる方々に登場していただき、きょ年のことや、ことしの抱負や夢を語ってもらいました。新しい年をむかえ、みなさんにとって幸多い年でありまよすうに……。



福田くん

半沢さん

栗田くん

がんばりまーす

福田 直樹くん (昭和43年5月14日生/登小五年 登別東町2-5-22)
去年、児童会の副会長に当選したのが一番うれしかった。今年もできれば児童会の役員としてがんばりたいと思います。

半沢 美紀さん (昭和43年6月16日生/登小五年 登別本町2-46-12)
昨年、バレエボール大会は、かぞで出場できなかったため、休む丈夫にすること、今年には是非出場してがんばりたい。そろばん一級も取りたいと思っています。

堅田 裕くん (昭和43年8月11日生/登小五年 登別東町2-30-1)
昨年の柔道全道大会では、団体でベスト八までいったので、今年には優勝をねらって練習します。得意の背負い投げ、体落としをもっと磨くつもりです。

今年 多忙な年に



戸田 光夫さん (昭和31年8月24日生/土建業 美岡町2-8-11)

これまで勤めていた会社をやめて、昨年の三月から家の仕事を手伝うようになったばかりですからまだまだ、はんび者なんです。早く仕事を覚えて一人前になることが、今年の課題ですね。ミスをするやりと直接収入に響きますから……やりがいがある反面、厳しいです。今まで以上にしっかりとこなさないとと思っています。暇があれば、高校時代に全道二位になったボクシングの練習もしたいのですが、今年、仕事上でもう必要のない大型特殊の免許を取りたいです。年内に結婚もしたいので……色々忙しい年になりそうです。



まちづくりと大学設置

登別市長 中 浜 元三郎

昭和五十五年の輝かしい新春を迎え、市民のみなさまに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

一九八〇年代の幕開けにあたり私は、「まちづくりは人づくり」の信念のもとに、全力を傾注してまいりたいと考えております。

名湯登別温泉を有する登別市はまち全体が温泉地のような印象を与えていますが、人口五万人のうち、観光に関連する人口は約六割、三千人にすぎず、約七十%は一般サラリーマンが占め、職場は隣接の室蘭市に待っているとい

う典型的なベッドタウンに突立しています。

明治二年、初めてこの地に入植し、開拓のくわをおろしたのは、仙台支藩白石城主の片倉一門であり、以来風雪百年、昭和四十五年には待望の市制を施行し、道内三十二市の中堅に位置するまちとな

っています。戦前における登別は温泉のほか、農業漁業が主産業である田舎まちであり、このまちが大きく変わったのは、隣接室蘭市の工業都市としての発展に伴い、関連する企業進出や、企業の社員住宅団地が、登別に建設されたこ

とが、そのきっかけとなっていました。まちの柱となっていた観光に、工業が関連し発展してきた登別ですが、私は今年四月、市長となつてから前段で申し上げた通り、「まちづくりは、人づくり」の考えのもとに、往時の地域社会で、伝統的

にはごくまれにできた「人間性の豊かさ、心身のたくましさ」を基調とする人づくりを進めたいと念願し、学園都市構想をうち出しています。このため、教育の一連のつながりとして、幼児教育から大学教育までを行い得る機能を、実現したいと考え、幼稚園全入と大学誘致

を柱とした教育施策を推し進めています。大学誘致につきましては設置条件となる地域性、環境整備等の受け入れ態勢の問題、設置認可の問題等、困難性はありますが幸いに、専門学校二校の誘致が内定、日本電子工学院がこのたび設置が決定しましたので、将来大学設置の礎となるよう、取り組んで

います。市民のみなさまからの要望が山積するなかで、限りある財政をいかに運用してそれにこたえて行くか、同時にまちの将来をどのよう

に方向づけて行くかを考え、観光工業、そして学園都市として、多角的な経営を行う地方都市をめざして、まちづくりを進めていきたいと考えます。

どうか、本年もより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。昭和五十五年が市民のみなさまにとりまして、幸せな年でありますようお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

その日その日に最善を

波谷 隆道さん (大正9年11月23日生/観音寺住職 登別温泉町1-1-9)

ユースホテルをしていて、若い人達と接する機会が多いせいで

しょうか、還暦を迎える年になったと言っても、実感はわいてきません。息子もまだ学生ですからこれが跡を継いでくれるようになるまで、もうひとがんばりです。

住職という仕事には停年はありませんから、歩けるうちはお勤めをしたい、そう思っています。

抱負と言っても、改まってどうと言うことはありませんが、感謝する心を育てていくと共に、その日その日に最善を尽くす、これが大切だと思っています。

その日その日に最善を

波谷 隆道さん (大正9年11月23日生/観音寺住職 登別温泉町1-1-9)

ユースホテルをしていて、若い人達と接する機会が多いせいで

謹賀新年



昭和55年 元旦

気張らず続けたい



沢田 冷子さん (昭和19年10月5日生/主婦 柏木町2/22/2)
昭和五十二年四月に室蘭市からこちらに引越しをしてきたので、登別市民としては日は浅いのですが、町内会の婦人部、登婦連の理事、小学校地区懇談会の役員、このほかコーラスもしていますので毎日本当に忙しく、自転車であちらこちらと飛び回っています。

みなさんと一緒に

一度手を付けたものはとんとんしくは気が済まない方で、しかも菜天家と言いますか、結局はおっちょこちょいなんです。主人からはたびたびお小言を。でも、人とのふれ合いは勉強になりますし、今だからできる事を今年もお手伝いさせて頂きたいと思っています。

注本 義勝さん (昭和19年5月17日生/理容業 富士町1/4)
私達の仕事は、スポーツなど違って、今年何勝したいと言った目標はありませんからね。夢としては、やはり店が繁盛して少しでも良い店にしていきたいということになりますね。



福祉充実に全力を

登別市議会議員 室 久吉

輝かしい新春を迎えるに当たり市議会を代表して、市民の皆様につつしんで新年のごあいさつを申しあげます。

昨年を振り返りますと、打ち続くインフレと不況により、市民生活は極度の圧迫を受け、地方財政の危機的様相が更に深刻化の一途をたどるなかで暮れました。

一方、市民の皆様は市政に対する要望は、ますます高まっております。

この様な状況の中で迎えた昭和五十五年は、登別市にとって極めて重要な年になると思われまます。ご承知のように、当市も著しい人口増に伴う都市化現象にあり、都市基盤の確立と近代都市施設整備に重要な諸問題に対応するためには、

は、厳しい財政状況が存在しておりますが、市民を代表する議会人として、国や道に對しまして、その対策を強力な実行運動として展開するとともに、市の理事者ともども、財政の許す限り、最大限の行政効果をあげるため、一層の努力をすべき年であると考えております。今後とも、市民福祉の向上をめざす諸政策につきましまして、適正な審議を通じて福祉充実に全力を注ぎ、安定した市民生活の基盤を確立して、五万五千市民の要求にこたえる決意であります。どうか本年もより一層のご支援ご協力をお願い申しあげ、昭和五十五年が市民の皆様にとりまして、幸せな年でありまます様お祈り申しあげまして新年のごあいさつといたします。

老人ホーム恵寿園への散髪奉仕のきつかけは理容いすを四年前に取り替えた時に、たまに老人ホームで使ってもらえればという事から、いすだけでは何ですすからね。月一回奉仕しようと言うことで始めた訳で、喜んでもらえるのはうれしいのですが、別に気負って始めたのじゃないんですよ。気張らないでこれからも続けたいと思っています。

今年もテニスを

佐藤 弘子さん (昭和7年1月6日生/主婦 札幌内町73)

昨年開かれた北海道婦人スポーツ連盟主催の軟式庭球大会の一部(経験二年未満)に出場したときは、優勝なんて夢にも考えていなかったのですが、コンビを組んだ岡さんのお陰、今になって責任の重さを感じていま



す。テニスは、主人について始めたのがきっかけで、現在レディスクラブに入会しています。こちらに来る前は、ママさんバレーや卓球、パドミントンもしていましたので、体力的には自信があるのですよ。やはり空気のよいところで体を動かすのは気持ちよいものですね。健康のためにも続けていきたいと思っています。



日本電子工学院の誘致決定

昭和55年着工、昭和57年4月開校めざす



写真は現在の大学本部で、本校の中心の建物となっています。

新聞報道などでご存じの通り、登別市札内町に電子工
学技術者や航空整備士などを養成する専門学校誘致が内
定していましたが、十二月の定例市議会で「大学等設
置に関する調査特別委員会」の報告があり、日本電子工
学院の誘致が決定いたしました。

この学校は、去年の六月以来、中浜市長が職員と共
に、東京周辺の各学校に対し積極的に誘致運動を行なっ
てきましたが、この結果二校からの現地調査もあり、登
別市札内町が最適地であるとして、十月に学校設置の請
願書を提出しました。

市ではこれを受け、初期調査の結果、設置実現の具体
性が認められるので、積極的に誘致しようとして十一月五日
の臨時市議会で行政報告しました。
議会側でも「大学等設置に関する調査特別委員会」を
設置して、慎重に審議、現地の学校を直接訪問し、その実

情を調査し、大学当局や関係者とも協議を続け、十二月
の市議会で、日本電子工学院の誘致を決定し、日本航空学
園についてはなお継続して審議することになりました。
また、民間サイドでも「大学等誘致期成会」を発足さ
せ、積極的な取り組みを進めています。

日本電子工学院の請願書によりすると、昭和五十五年
／五十六年に校舎を建築し、昭和五十七年四月に開校す
る計画で、将来は四年制大学への昇格をめざしています。
市では大学等の設置実現による波及的效果を考えると、
大きなメリットがありますので、許認可や条件整
備、周辺農家との協議などの課題と取り組み、早期に設
置実現をはかっていくことにしています。

以上、経過の概略をお知らせしましたが、学校の設置
計画、将来の効果など紹介し、日本電子工学院の誘致決
定についての街の声もひろってみました。

計画完了時には学生数四千人の規模へ

日本電子工学院は、東京都大田
区西蒲田にあって、電子工学、情
報処理、電気工事科など十三科目
をそなえた工業専門課程とデザイ
ン科・放送制作芸術科・演劇科な
ど五科目の芸術専門課程が設置さ
れている在籍生徒数七千人を超え
る工業技術系の専門学校です。
昭和二十二年に創立し、以来三
十二年の校歴をもっています。

教授、講師陣が二百六十名、事
務職員百二十五名の構成で、取得
できる主な技術資格は、各級無線
通信士・情報処理技術者・電気主
任技術者など十三の資格があり、

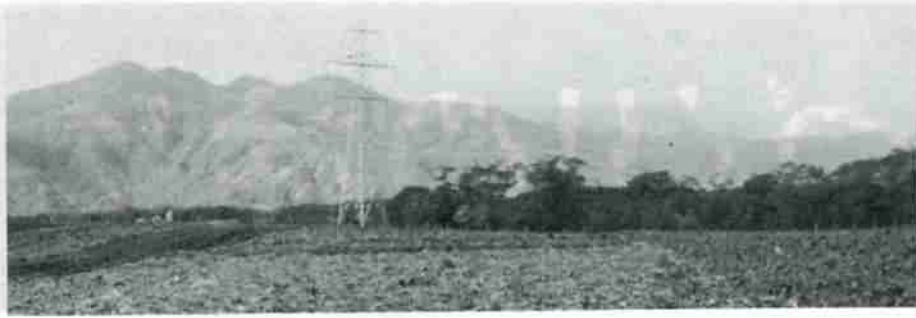
これまでの卒業生は約五万人と
なっています。
登別市に設置する計画の内容は
おおむね次の通りです。
第一期は、昭和五十七年度まで
に、電子工学科、情報処理学科、
電気工事技術科の三科で総定員が
千二百名で、校舎、食堂、寄宿棟
などを完成させる計画です。
第二期としては、土木工学、建築
工学と情報経営学の三学科を増設
し、総定員八百名を新たに加え、
昭和六十一年度から六学科二千名
となります。
さらに、第三期計画では別に大

学を新設するもので、設置学科は
六学科で総定員二千名の規模のも
のとして、昭和六十一年度以降に
四年制大学として開校する計画で
す。

全体計画完了時には、大学と専
門学校に合わせて四千名の学生が
集まることとなります。
学校側では、昭和五十七年四月
開校をめざし、昭和五十五年早
々に現地事務局を設置し、建設な
らびに入学生の募集などの事務を
進めることになっております。

日本電子工学院が設置されて、
四千名の学生が各地から集まっ
てきますと、若い学生たちのエネル
ギーで、街は大いに活気づくこと
でしょう。そして将来の発展に大
きな役割を果たすことになると思
います。
日本電子工学院の誘致運動を初
めてから、設置決定まで、半年足
らずの短かい期間であったため、
突然のできごとのように思われる
方もあろうかと思っております。こ
の点に少しふれてみましょう。
大学誘致は、私たち市民の永年
の念願でした。
しかし、各市町村が激しい誘致
合戦を展開している状況の中で

札内町の日本電子工学院設置予定地



条件整備を急ぎ早期着工へ

から、そう簡単に設置が決まるものではない。もし、ガラス張りに全部をオープンで誘致運動を進めた場合、途中で第三者が介入したり、決まるものも決まらないということから、潜在的に誘致運動を展開してきた

わけてです。また、市が専門学校の誘致に力を注いだ理由は、国が大学の増設を抑えているため、北海道知事の認許だけで設置が認められる専門学校を先ず設置し、その後、大学に昇格させる、というねらい

からでした。そして、本校は以前から大学設立の希望を持っている実力を備えた専門学校であり、現在の敷地では国の認可基準に満たないということから、転出の機会を待っていただくようです。

市の大学誘致に伴う、学園都市構想、観光開発などへの期待と学校側の「ねらい」が一致したことが誘致決定を早める結果となったといえます。

日本電子工学院が登別市進出を決めるまでに、札内町の現地を数回にわたって調査し、高校の進学状況、地理的条件など全般にわたる調査、検討を加えて請願書を提出しています。

進めています。また、学校設置の認可については、道知事の認可となりますが、学校側の設置意欲、資金力、校歴就職実績、時代にマッチする学科等から、設置認可は十分と考えられます。

設置請願の中で、市に対し要請してきた内容をみると、学校敷地の提供と道路、上下水道、電力施設の整備、バス路線の開設についての協力と、学校設置認可の支援となっています。

すでに学校では北海道と打合わせを始めています。市では、諸般の条件を整え、昭和五十七年四月に開校できるよう取り組んでいます。

これらに要請に対し、市では原則的に同意しており、課題の解決は、それぞれの関係機関と協議を

にむけ、各関係機関に働きかけるなど、早期着工へ向け努力を続けていく方針です。学校敷地は、市有地ですので問題はありせん。道路整備は、道々ですから北海道に対し強く促進を要望し、水は営農用水とは別に利用できるような施設を増設します。上下水道は、一般市民と同じ立場で供給をしなければならぬものです。

電力、電話、バス運行については、それぞれの関係機関と協議を

市では、諸般の条件を整え、昭和五十七年四月に開校できるよう取り組んでいます。

日本電子工学院をはじめとする四年制大学への昇格を前提とした専門学校が登別市に誘致されることによる波及効果は大きく、計り知れないものがあります。

以上のように、メリットは限りなくありますが、何となくも地元でありますが、設置されることにより、私たち市民と大学生との接触の機会がもたれる。また、子供たちや中学生、高校生に夢、希望を育てていくことに

●地元にあることにより、自宅通学による下宿代、交通費等の家計負担が軽くなる。

●野球場、グラウンド、体育館等の開放により、スポーツの交流や健康保持と体育の向上がはかられる。

●下宿業、部屋賃、商店、飲食店、洗濯業、遊技場、ハイヤー業などの伸展による直接、間接的な市民経済の振興となる。

●若い学生のエネルギーが活気ある街へと化する。

●企業の卒業生採用による、技術向上と効率化と振興がはかられる

●バス運行による札内地区住民の足を確保すると共に、近隣市街地との交通利便向上に役立つ。

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

●札内地区開発の拠点となり、田園都市札内の開発方向が具体化する。

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

●バス運行による札内地区住民の足を確保すると共に、近隣市街地との交通利便向上に役立つ。

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

●バス運行による札内地区住民の足を確保すると共に、近隣市街地との交通利便向上に役立つ。

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

●バス運行による札内地区住民の足を確保すると共に、近隣市街地との交通利便向上に役立つ。

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

●バス運行による札内地区住民の足を確保すると共に、近隣市街地との交通利便向上に役立つ。

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

●バス運行による札内地区住民の足を確保すると共に、近隣市街地との交通利便向上に役立つ。



超大型コンピュータも配備され操作実習が行われます。

波及効果は大きく計り知れない

●野球場、グラウンド、体育館等の開放により、スポーツの交流や健康保持と体育の向上がはかられる。

●若い学生のエネルギーが活気ある街へと化する。

●企業の卒業生採用による、技術向上と効率化と振興がはかられる

●バス運行による札内地区住民の足を確保すると共に、近隣市街地との交通利便向上に役立つ。

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

●高度な新しい技術や学校を媒体とした文化の伝達、交流が行われ

と郷土登別の真の意味の発展のため、大きな刺激剤となることはまちがいないでしょう。

今日の登別を支えてきた観光と工業といった二つの大きな柱に、学園都市構想を新たに加え、将来の効率的発展を進めていくために、多角的行政運営を行なって、個性的な都市建設をめざしていきたいと思えます。

市民のみならず、絶大なご理解とご協力を期待するものです。

新しい街づくりの柱に

北海道一の立派な大学を

日本電子工学院院长 片柳 鴻さん



わが日本電子工学院は、昭和二十二年に戦後復興の原動力となる若者の教育こそが急務であると考へ、まず技術修得の道を拓き、立派な技術者であるとともに、よき社会人を送り出して、わが国産業の再開、発展に貢献すべく、開校いたしました。

以来、テレビ技術者など電子工業界における、技術者の需要は止まるどころを知らず驚異的な躍進を示し、本校は、時代の要請に応え、教育設備の拡充、勉学の場の確保に努力してまいりました。その結果、本校卒業生の活動の場も大いに広がり、その実績は高く評価されています。今後も、必ず高い評価を受ける価値ある人材が輩出することを確信しています。

このほど、登別市民のみなさまのご理解とご協力により、本校の進出につきまして決定をいただきましたので、さらに教育施設の充実と内容の向上を計り、教育の徹底を行ない、今後とも社会に貢献する立派な人材の養成に意を尽すつもりです。

今回の登別市進出につきましては、中浜登別市長の非常にご熱心な努力と、まちづくりは、人づくりの考えに敬服いたし、決断をくだした次第です。

登別市は北海道でも、温暖で風光明媚なところで、教育環境としては、立地条件に恵まれていますので、計画通りぜひ昭和五十七年四月に開校できるよう努力してまいります。学校経営には地元市民のみなさまの協力がなければなりません。

登別市民と共に北海道一の立派な大学をつくらせていきます。どうぞよろしくおねがい致します。

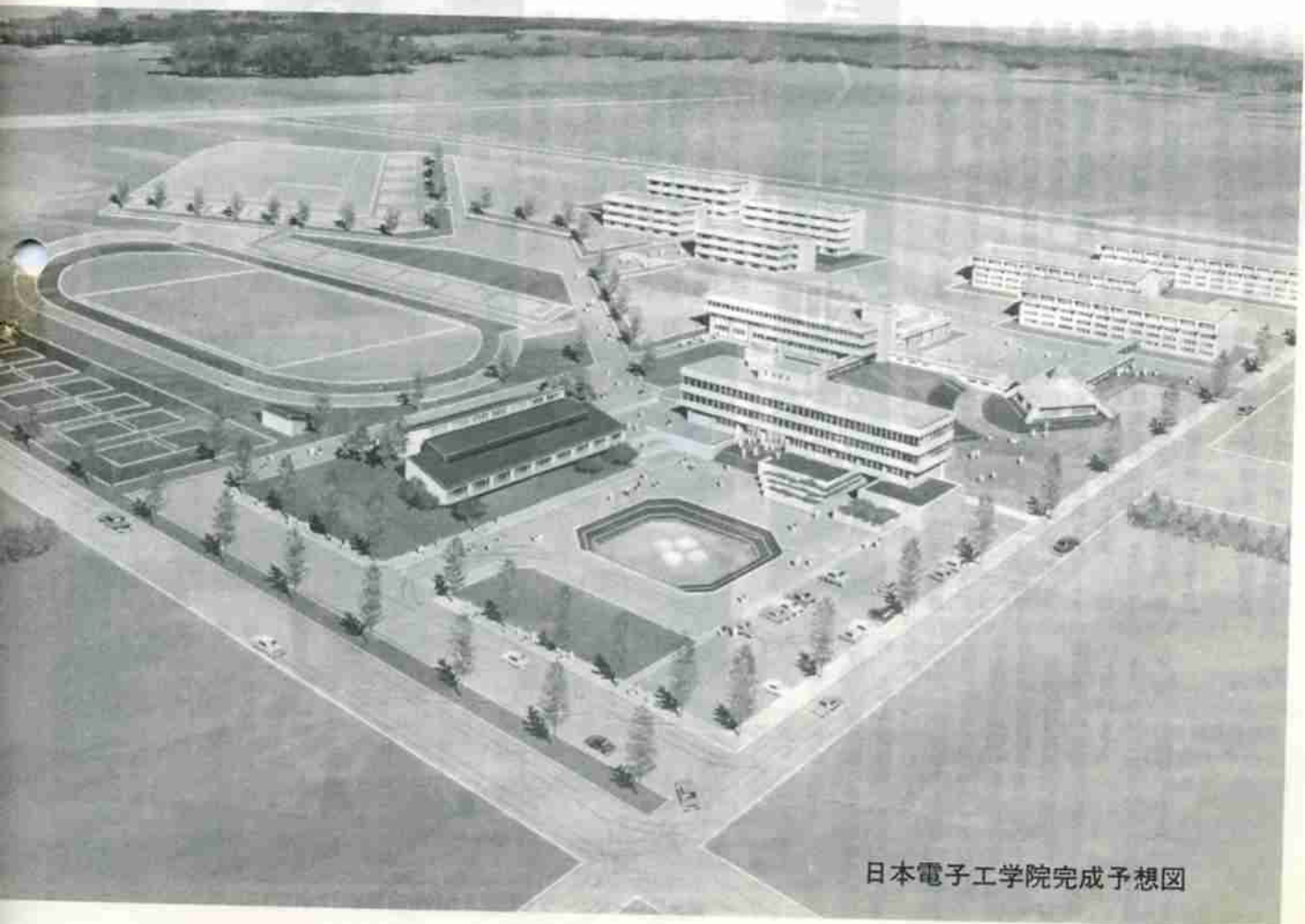
なお、下の完成予想図は、登別市札内町に設置する大学で、構内には立派な陸上競技場や野球場も配備することになっています。

大学設置の推進役として

北海道議会議員 高田 忠 雄さん



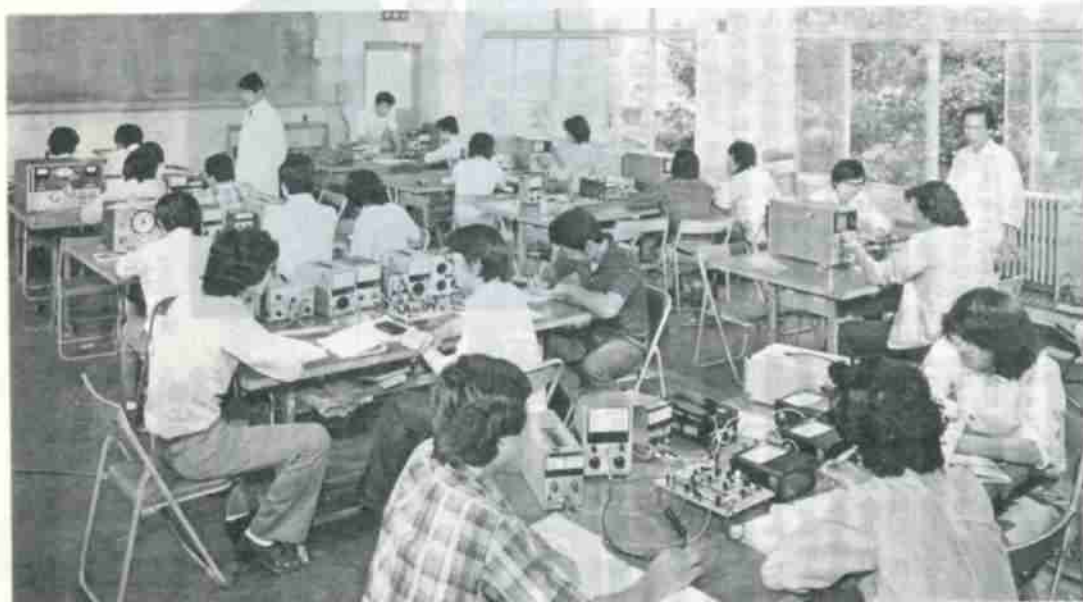
二十年前には高校もなかった登別市ですが、やがて登別高校、登別大谷高校そして登別南高校が設置されましたが、大学誘致はかねてよりの念願でありながら、なかなか困難な状態でした。しかし市



日本電子工学院完成予想図

学園都市構想を新

観光と工業に学園都市を加え多角経営をめざす



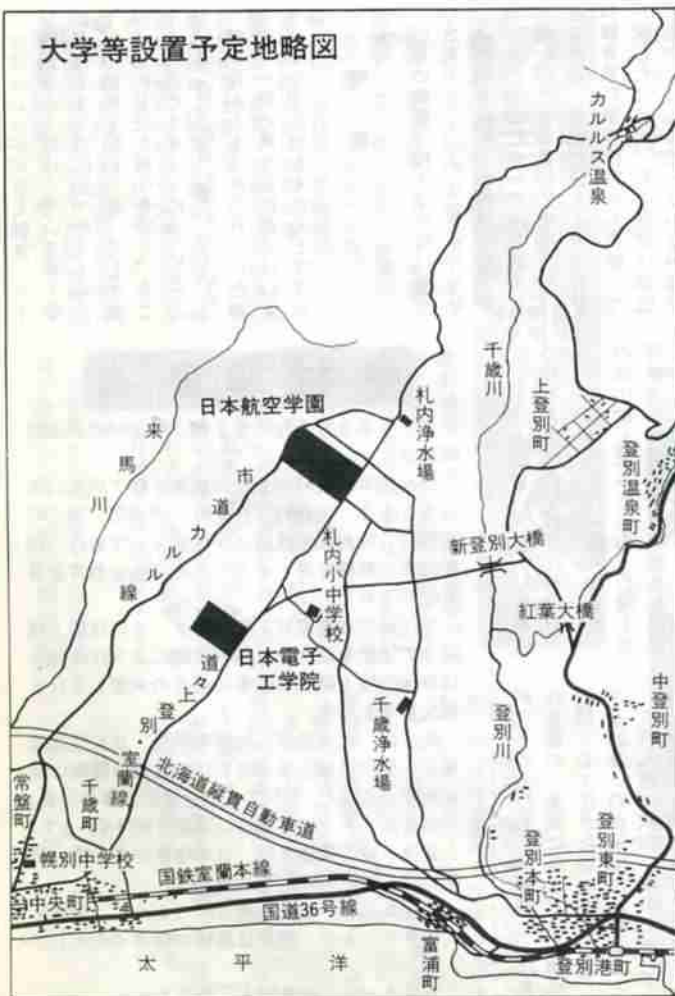
学校が開校すると写真のような実習風景がみられるようになります

長が高等教育（大学）の場を登別市にという学園都市構想をうちたて具体化され、このほどようやく実を結んだことに、登別市民としても大変嬉しいことです。

十二月の道議会にて知事も「登別の誘致運動に積極的に協力する」と答えており、私は、大学設置に関するいろいろな問題点を解決していくため、国・道とのパイプ役をつとめ、大学設置の積極的な推進役として努力していきたいと考えています。

大学設置は、単に登別市だけの問題ではなく、道政の一環としても取り上げ、その発展のためにもぜひ設置実現をはかり、全力を傾注してまいります。

大学等設置予定地略図



誘致決定に寄せられた 喜びの声

登別商工会議所会頭 上田邦男さん

登別市の発展は、そこに住む人

間のレベル向上が基本。そういう意味での教育振興、大学誘致はすばらしい。積極的に応援する。

登別市婦人団体連絡協議会会長 宮城キエさん

大学ができ地元で教育が受けられる。専門的技術を生かし就職に役立つなど、純粹に受け止め喜んでいきます。

登別温泉観光協会会長 中牧昇さん

大学誘致のメリットは大きい。ぜひ成功させたい。58年には新登別大橋ができて交通利便となり、観光発展にも大いに期待できる。

登別大谷高校校長 徳島年久さん

全道的にみても、四年制大学や短大よりも専門学校へ進む生徒が多くなっている。魅力あるニースと受け止めたいと期待したい。

登別青年会議所理事長 河西英一さん

市全体としては、これまで四地区に分かれて、工業と観光といった柱で発展してきたが、今後大きな目標ができたので協力する。

札幌中学校生徒会長 神村浩由さん

地元で大学ができることは大変ありがたいことです。できればこの大学に入りたいという夢と希望がわいてきます。

随想

この道は

中村肆基



この頃ではある。餅は必ずしも餅屋でなくとも良いはずで。お互いに忘れていたものをかき立て思い出したいものです。

陸上競技(秩父宮章受賞)

晴れ上がった九州の宮崎国体の開会式は、その夜半から崩れ始め十月十六日は台風二十号の接近を案じられたが、正午頃から奇跡的に雨も上がり、秩父宮章の受賞式は数万に及ぶスタンド観衆からの拍手を浴びて進行された。

私は受章者三十人の一番目、うすいピンクのドレスを召された秩父宮妃殿下の、高貴なお美しさはとて御年七十歳とは思えなかつた。

場内に「北海道陸上競技協会 中村肆基」とアナウンスされると大きな賞状と桐の小箱を苦勞さまで仰せられ御手づからお渡し下さった。その時はさすがに緊張してしまい、握手があつたらそのお手をどういたしたかと思つた。

昔、西欧のある学者が王妃にご進講中、熱中の余り王妃の衣に触れショックで卒倒した話がふつと頭をよぎった。どうしようもないうちに妃は第三番目の受賞者M氏に正対なされた。仕舞つたという後悔とホッとした感じが錯雑した。

そんなしおらしい俺じゃないはずと思いつつ、スタンドから集中している人々に向かったまま、思い切り横目で授賞のお姿をとらえようとした。が然し、M氏の小刻みにふるえて賞状を握る掌しか見ることが出来なかつた。

フラッシュが何度も続き、三分程過ぎた。汗ばんでいる背と掌に私は五十年目に切ったゴールテープの感触を味わつた。そして我が子らに見せた背中を守り、今こそこの道のスタートに着いたんだ。と、自分に言い聞かせていた。

暗いながらも支えられていた雨雲が、一陣の風と共に低くはいよりグラウンドに雨をもたらしして来た。

短歌

旧制の師範学校入学の時、漢文のS先生が「入学の決意を作文せよ」と宿題された。当時は全寮制であつたから寮に備つて四苦八苦しで思いのままを書いて提出した。ところが、級友のほとんどが自分の修身教科書の内容からの暗示で作文したため、私の作文は異色であつたらしくて「なかなか面白い、お前俳句をやつて見ろ」と言われて二年間指導をいただいた。

これが私の文学開眼であつたのであろうが、その後新興短歌に入門して、これに夢中で燃えた。どの教科書習も昔短歌の素材であつた。

歌誌「木賊」の安住先生に師事して約十五年、今は最も楽しみである。厳しい短歌の道に苦しみながら先輩達との交誼を深めている。

今朝届けられた「昭和萬葉集」の戦中歌を読みながら、教壇上で守り切つた師範教育の強さを思い知らされ、教え子を戦場に送つた悲しみをたたせられている。

自分の生活専門のコース以外の趣味を持ってはしつた、しきりに思うこの頃です。ひとりの時をもて余す人や、自分一個の個人的趣味を持たなかつた人の淋しさがわかる気がするからです。

中村肆基氏

大正4年9月函館に生まれ、現在64歳。函館師範学校本科卒業。

昭和10年鶴川町内2校の訓導を経て昭和22年校長となり、洞爺村、白老町、伊達市、追分町を歴任し昭和46年鶴別小学校長として着任、昭和51年に教職を退くまで、各地で社会教育委員も歴任された。

学生時代は美術部で絵を描き、その後陸上競技界で活動を続け、永年の功績により昨年10月16日国内陸上競技貢献者の最高の栄誉とされる秩父宮賞を受賞。

現在は、北海道陸協財務委員長、日担陸協理事、登別陸協会長、登別体協監査の要職に就かれているほか、登別文化協会短歌部事務局長、同協会副会長として幅広い活動を続けています。

書道5段、柔道3段、日本陸連終身一種公認審判員、短歌「木賊」登別支部長。

お子さんは、女1人男3人の4人で、それぞれ独立しており、現在は奥様の瑞津子さんと2人住まい。お住まいは、柏木町1丁目31番地4。

が、その方たちが回顧談にふけられる姿が一番気になる。己一個が人間として生きた話をほとんどしてくれないのが気になるのである。この人達は戦前、戦中を通じて国策の道のみ歩まされて、ひとり立ちが許されず、組織内だけの自分しか知らない中に老いてしまつたのでしよう。

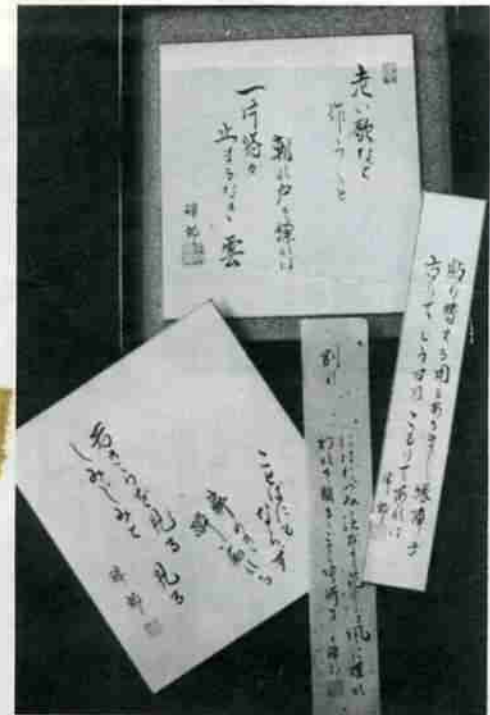
自分の生活専門のコース以外の趣味を持ってはしつた、しきりに思うこの頃です。ひとりの時をもて余す人や、自分一個の個人的趣味を持たなかつた人の淋しさがわかる気がするからです。

友人のTさん達が老人の中へ入って、楽しい趣味を開拓している話をよく聞くが、その度に嬉しく有難い情熱だと思つている。

私のこの道の歩みは家内と共にまだ続きましよう。夫々が自分一個の個人的趣味を堪能したいと焦りながら――

なにか変わるともなき風情の居間にまで八十年初除夜の鐘かも

（肆基 郎）



ふつと眼があく、朝刊が待ち遠しい。やつと届いた新聞を開けば先ず目に飛びこんで来る活字は「教育」「陸上競技」そして「短歌」である。

「教育」生活四十一年ともなれば、さもあらんか、「陸上競技」の道も学生時代からのめりこんで五十年、この活字も一番先に飛びこんで来るはずもある。「短歌」との出合いも学生時代を数えて二十年を越えようが、今日現在一番楽しく苦しいのがこの道である。

新しい年を迎えたのだから、歩いて来た小さなこの道のメモを拾つて見ようと思ひ、この街のこれらの体臭も考えて見たかった。

教育

教育だから「今日行く」でなければなるまい、この子との接触から起きた問題の解決は、明日では遅すぎるのです。大人は経験があるから待てもしましようが、この

子にとってはこの問題は待たないです。今日中にもその解決を指しななければ――が私の信条でした。ほとほりをさますなどともないことです。鉄は熱い中で家庭内でも同じことでしょう。四六時中親の背中を見て成長して行く子供達ですもの。

四人の子の父であつた私は、今考えれば恥ずかしい事ばかりでした。今も酒の肴に

「あの時の親爺は……」と、指摘されて顔ばかりか背中まで赤らめる事が多いが、奇妙に私のこの道へ精進する姿は、子らの印象に残つて彼らの人生を方向付けたらしい。学生時代からスポーツ好きであつた私の、本も話題も交際関係も濃密であつたからでしょう。私と同じような趣味の道をひたすら歩く我が子の姿を嬉しと思

郷土史探訪

岡志別川

登別の川を訪ねて

(魚捕り小屋のある川)

来馬川の東、刈田神社から幌別中学校、そして北海道曹達株式会社住宅地である千歳町三・四・五丁目の高台は、古くから、ニナルカ(台地の上)とよばれた地域で、今でもソーダ工場に関係のある人は「ニナルカ住宅」と呼んで、昔の地名を残しています。

恐らくアイヌ語研究で著名な山田秀三先生が同工場の工場長や会長をされておられたので、ニナルカの地名が残っていたのか、と感心しております。

そのニナルカの高台地域の東側低地帯には、昭和二十四年五月に設立された北海道曹達幌別工場があり、その中央を流れているのが岡志別川(オカシベツ川)で、川下の東側に三洋工業や東興プロッタの工場、西側は幌別八丁目の四階建市営住宅があります。

この川は、あまり大きい川ではありませんが、江戸時代末期に蝦夷地探検家として有名な松浦武四郎や長沢誠至などの記録や地図にもでてくる古い川や地名で、当時からよく知られていました。

長沢誠至の東蝦夷地海岸図台帳の中の登別地方の地図をみますと

字地名がありました。昭和九年の行政地名の変更でこれを統合して千歳町という地名になり、オカシベツの地名がなくなりまし。千歳町は千年、永遠の歳月を祈ってつけられたものでしょうが、地名が全く消えたのは残念です。

オカシベツの語源は、オカシ・ウン・ベツ(川尻・魚捕小屋・ある・川)と、ウ・カチツウ・ベツ(互いに・槍を投げて突き合った・川)の二つの説があつて、知里真志保博士も山田秀三先生もどちらが本当か疑問をもつていたようです。表題の解釈もその意味で理解してもらいたいと思います。

オカシベツと訳した場合、この川は大きな川ではありませんが、水もきれいでやはり秋には鮭がのぼったり、イワナ、ヤマメもたくさんいました。

前記で紹介した東蝦夷海岸台帳をみますと、川口に二戸の家があるのは魚がよくとれていたものでコタンが作られていたのしょうし明治以降、登別の大漁家であった井上伊勢八氏経営の井上漁場もありました。

また別の語源「ウカツチウベツ」

の意から考えると「互いに槍を投げて突き合った川」というおたやかでない地名由来の印象をうけますが、知里博士、山田先生の言われる地名伝説には次のような説明がされています。

むかしランボク(富浦)とワシベツ(鶯別)びいきの者がいてそれぞれどちらに「ウニ」がたくさんあるかという事で争いになり、結局この川を出発点として西のワシベツと東のランボクまで走り、どちらが先にウニをたくさん取ってもどつてくるか競争になりました。

ところが結果的には遠いはずのワシベツ側がたくさんのウニを早く取ってきたので「ずるい事をしてこまかしたのであろう」と、今度は両者の決闘となり、ヨモギで作った投げ槍をもつて、この川をへだてて投げ合ったので、それ以来この川を、ウカツチウベツとよぶようになったのだと言われています。

また江戸時代、幌別場所の生産物に、かわうその皮の名があります。この川岸には現在日本でもその生息がめずらしいと言われている、イタチ科の「かわうそ」が住んでいたような話があり、人間が通った時、人の言葉をまねして、人をだまし水にさそいこんだという語りぐさが多く残っている川でもあります。

そして今から約百年前、明治十四年以降の登別市開拓に大きな力があった四国讃岐(香川県)の移住者の多くが、このオカシベツ川から東の方、ランボク(富浦)にかけて移住開拓した土地であることも知っておきたいものです。

登別市郷土文化研究会 (宮武記)



税金

還付を受けるための申告はお早めに

昭和五十四年分所得税の確定申告の時期(二月十六日/三月十五日)が近づきました。所得税にはいろいろな控除があり、サラリーマンの場合、ほとんどの人が年末調整で控除を受け、その年の納税は完了します。しかし、医療費控除や住宅取得控除などは、年末調整で控除できませんので、確定申告によって控除され税金が戻ってきます。また、商売をしている人などで予定納税をした税金が納め過ぎになっている人も税金が戻ります。

その床面積が一六五平方メートル以下で、新築・購入してから六か月以内に入居し、引き続き居住している場合、居住した年から三年間、各年の所得額から最高三万円が控除されます。また、この控除が受けられる住宅を購入する際、民間の金融機関などから返済期間十年以上のローンを利用し、昭和五十三年一月一日以後に居住したときは、年間返済額に応じて、さらに最高三万円が三年間控除されます。

- (1) サラリーマンで雑損控除、医療費控除、住宅取得控除が受けられる人。
- (2) 雑損控除：災害や盗難、横領などにあい、住宅や家財に損害を受け、その損害額が年間所得の一〇%を超えているときは、その超えている部分所得金額から控除されま
- (3) 医療費控除：本人や家族が病気になる、医療費を支払った場合、その額が通常五万円を超えていると、その超えた部分の金額が所得金額から控除されます。
- (4) 住宅取得控除：住宅を新築したり、新築住宅を購入し、

昭和五十四年分所得税の確定申告の時期(二月十六日/三月十五日)が近づきました。所得税にはいろいろな控除があり、サラリーマンの場合、ほとんどの人が年末調整で控除を受け、その年の納税は完了します。しかし、医療費控除や住宅取得控除などは、年末調整で控除できませんので、確定申告によって控除され税金が戻ってきます。また、商売をしている人などで予定納税をした税金が納め過ぎになっている人も税金が戻ります。

その床面積が一六五平方メートル以下で、新築・購入してから六か月以内に入居し、引き続き居住している場合、居住した年から三年間、各年の所得額から最高三万円が控除されます。また、この控除が受けられる住宅を購入する際、民間の金融機関などから返済期間十年以上のローンを利用し、昭和五十三年一月一日以後に居住したときは、年間返済額に

建設 ニュース



幌別東保育所

幌別東団地横に建設している幌別東保育所は、市内10番目の保育所として4月に開所します。

同保育所の総事業費は、1億3,085万円で、市内で最も広い保育所となります。市内初の2階建てですので、避難口の整備にも充分配慮しているほか、採光や2階との空間を利用した遊具も設け、新しい試みを採用しています。

入所の案内は、11ページに掲載されています。



幌別西小学校



幌別中学校

校舎の増改築

幌別西小学校 今年三月の完成をめざし、急ピッチで工事が進められています。普通教室三、特別教室四、管理諸室十一の計十八が増改築され、これで同校校舎の整備事業が完了します。予算は、一部市振興公社受託事業も含めて二億二千六百五十万円です。

幌別中学校 西小学校と同じく三月完成予定で、特別教室四室が増築されます。予算額は、一億五百二十五万円です。これらの事業が完成すると、市内の全ての校舎が永久校舎となります。

市営住宅



今年度はすでに、千代の台団地に12戸が完成していますが、現在幌別東団地でも2種市営住宅1棟24戸の建設が、1億7,760万円の予算で進められています。

同住宅の完成は3月下旬となっておりますので、2月下旬に入居者を募集します。



給水状況

昭和五十三年度の当市の水道事業会計の概況は、次のようになっています。

昭和五十三年度 水道事業会計決算状況

昭和五十三年度の当市の水道事業会計の概況は、次のようになっています。昭和三十九年度に比べて二十八万六千三百十六立方メートル減ったにもかかわらず、給水量(実際に使われた水)が十九万二千八百四立方メートル増えたのは、老朽管の取り替えや、漏水の早期修理に努めたことと、水道を利用していただくみなさまのご協力の結果です。このため、有収率(料金収入になる割合)が八・三九割も向上しました。

ただ給水人口、普及率ともに順調に伸びていますが、諸物価の高騰により供給準備、給水原価が上がってきていますので、財政的には次第に苦しくなっています。

給水状況

年度	配水量 (m ³)	給水量 (m ³)	有収率 (%)	給水収益 (円)	供給準備 (%)	給水原価 (円)	給水区内人口 (人)	給水人口 (人)	普及率 (%)
52	4,821,507	3,163,871	65.62	184,432,182	58.29	50.76	52,572	48,823	92.87
53	4,535,191	3,356,675	74.01	197,147,488	58.73	54.42	53,901	50,153	93.05
差	△ 286,316	192,804	8.39	12,715,006	0.44	3.66	1,329	1,330	0.18

成人式のご案内

1月15日は成人の日です。
登別市では、新たに成人として巣立つ若人の輝かしい将来を祝って、登別市中央公民館で式典を行います。
今回成人式を迎えるのは、昭和34年4月2日～昭和35年4月1日までに生まれた方々です。
案内状は年賀状として送付していますが、もし届いていない方は教育委員会社会教育課（電話5局2111内線350）へご連絡ください。

成人式日程は次のとおりです。
◎日時 1月15日、受付…午前10時30分から、式典…午前11時～11時30分まで。
◎場所 登別市中央公民館
※当日案内状をご持参ください。
※記念品を差しあげますので、是非ご出席ください。
※当日バスを、次のとおり運行いたしますのでご利用ください。

成人式バス運行時刻表

(1号車) イーストショップ発～千代の台団地～体育館～榎木団地～大谷高校	10.00	10.05	10.10	10.15	10.20
(2号車) 登別公民館～帝國酸素～富岸～幌別本町	10.10	10.15	10.21	10.28	
(3号車) 温泉バスターミナル～中登別～登別～富浦～市役所入口	10.00	10.05	10.11	10.16	10.25

(上記は主要バス停時間ですがコース内の各道南バス停留所にも停車いたします)

カルルス温泉スキー場



- 〈一月行事日程〉
- ▽一月二日 市民レディース スキースクール
 - ▽一月十三日 市民スキー大会兼道民スポーツ選手会
 - ▽一月二十日 市民歩くスキーの会
 - ▽一月二十七日 基礎スキー検定会
- ※カルルス温泉スキー場のコンディションはスキー場管理事務所（電話4局2872）へお問い合わせください。

登別高校定時制課程の生徒を募集

市内片倉町にある道立登別高校定時制課程では、昭和五十五年度の新入生を、次のとおり募集を行います。

- ◎定員 40名
- ◎通学時間 午後5時30分～9時まで
- ◎入学資格 中卒者または同等の学力がある方

保育所入所児童を募集します

市立保育所の入所児童を、次のとおり募集します。
なお、今年四月から幌別東保育所（幌別町八丁目）が新たに開設され、川上・本町・上幌別保育所がそれぞれ榎木・幌別・美園保育所に名称変更されます。

- ◎申請書交付・受付期間 一月十日～一月十九日
- ◎申請書交付・受付場所 市幼児保育課および各支所
- ◎入所資格 満三歳以上（富士・鷺別・栄町・幌別東・榎木保育所は生後六カ月以上）で、その家庭が次のような場合です。

- 母親が昼間 家庭外で仕事をしていた別数
- 子どもと離れて家事以外の保育
- 仕事をするため、保育できない家庭。

保育所名	3歳以上児	
	3歳未満児	3歳以上児
富士保育所	20名	100名
幌別東保育所	20	100
榎木上保育所	10	50
幌別町保育所	-	60
鷺別町保育所	20	100
栄美園保育所	20	100
登別温泉保育所	-	90
富浦保育所	-	60
		30



学力がある方で年齢は問いません。
◎入学志願手続き期間 出身中学校を通じて、1月19日～1月25日までに出席してください。
就職内定証明を添付出来る方は2月29日までです。
◎出願先および問い合わせ先 登別市片倉町五丁目十八番地二 北海道登別高校定時制課程 電話5局2911です。
※ほかに、2学年以上に転入入学したい方も、それぞれ次の資格があれば若干名受け付けます。

上登別ゴミ処分場を閉鎖しました

昨年十二月二十八日をもって、上登別ゴミ処分場を閉鎖いたしましたので、今後ゴミを捨てる場合は、幌別中学校上の約二キロメートル先にあります、千歳ゴミ処分場へお出しください。
なお、閉鎖後上登別ゴミ処分場にゴミを捨てますと、法律で罰せられますので絶対に捨てないでください。

問合わせについては、市環境衛生課（電話5局2958）まで。

フォークダンス 教室

総合体育館では、いつでもだれでも気軽に踊れる、フォークダンス教室を、次のとおり開催いたします。

- ◎日時 昭和55年1月22日～2月26日までの毎週火・金曜日（計10回）、時間はいずれも午後6時30分～8時30分。
- ◎対象 市内に居住する一般男女
- ◎募集人員 三十名
- ◎申し込み期 1月20日まで
- ◎申し込みと問い合わせ先 市総合体育館（若山町二丁目二十六ノ一）電話5局5552

※軽装で、運動靴を持参してください。

ミニバレーボール大会の参加者募集

市教育委員会では、市民のみなまを対象に、冬の運動不足を解消するため、だれでも気軽に楽しめるミニバレーボール大会を、次のとおり開催いたしますので多数ご参加ください。

- ◎日時 二月三日（日）午前九時三十分から
- ◎場所 市総合体育館
- ◎チーム編成 一チーム六名（補欠含む）
- ◎試合方法 予選リーグ、決勝トーナメント方式
- ◎ルール 六人制バレーボール規則を準用し、一セット十一点、三セットマッチ
- ◎コートおよびネットは、バドミントン用コート、ネットを使用。
- ◎試合球は、主催者側で用意するビーチボールを使用
- ◎申し込み期 一月二十七日まで
- ◎申し込み先、問い合わせ先 市総合体育館（電話5局5552）まで

インコを探しています

十二月二日、鷺別の室蘭市小学校給食センター裏で、黄色のインコが行方不明になりました。黄色のインコが目が赤く、人によく慣れていました。お心当たりの方はご連絡ください。

- ◎連絡先 市内登別町二丁目七番地二 遠藤雄次（電話64771）

労働学園

和裁教室を 開きます

市では、今年度も働く婦人を対象とした労働学園を、次のとおり開催します。

- 日時 2月6日、13日、20日、27日、3月5日、12日、19日、26日(計8回)、時間は、いずれも午後5時30分から8時30分までです。
- 場所 市労働福祉センター
- 定員 十五名
- 受講料 無料(教材費は自己負担)
- 申し込み期日 2月5日まで
- 申し込みと問い合わせ先 市労働課(電話5局2111内線263)

おいでください。

「中華料理教室」

市教育委員会では、「中華料理教室」を次のとおりひらきます。定員になり次第締め切りますので、早めに申し込みください。*当日筆記用具、エプロン、手ふ

新春講演会

「動乱政局の今後の行方」

- 日時 一月十九日(土) 午後一時から
- 場所 特別商工会館
- 定員 二百五十名
- 申し込み先 特別商工会議所(電話5局4111)で入場整理券を発行いたします。
- 講師 NHK解説委員長 家城啓一郎氏

さん、三角きんなどは各自持参してください。

- ▼場所・開講日・定員
 - 警別公民館 一回目：2月1日、2日、二回目：2月27日、29日、定員20名
 - 中央公民館 一回目：2月4日、6日、二回目：3月12日、14日、定員20名
 - 警別温泉公民館 2月15日、16日、定員20名
 - 婦人センター 2月20日、22日、定員30名
 - 富浦婦人研修の家 3月5日、7日、定員20名
- ▼時間 五会場とも午前十時から十二時まで
- ▼受講料 無料
- ▼教材費 二日分千二百円、当日徴収します。
- ▼講師 小野寺和子さん。
- ▼申し込み先 市教育委員会社会教育課(電話5局2111内線349)



ひな祭り用 和紙人形 づくり教室

市教育委員会では、「ひな祭り用和紙人形づくり教室」を、次のとおりひらきます。定員になり次第締め切りますので、早めに申し込みください。*当日筆記用具、ものさし、はさみ、めうち、木工用ボンド、白黒糸、はし(丸いもの)などは各自持参してください。

- 登別婦人センター 1月25日、26日、定員20名
- ひまわり園 1月28日、31日、定員20名
- 警別公民館 2月1日、2日、定員20名
- 登別温泉公民館 2月4日、7日、定員20名
- 中央公民館 2月8日、9日、定員20名
- ▼時間 五会場とも午前十時から十二時まで
- ▼受講料 無料
- ▼教材費 二日分千五百円、当日徴収します。
- ▼講師 永森敦子さん
- ▼申し込み先 市教育委員会社会教育課(電話5局2111内線349)
- ▼場所・開講日・定員

赤ちゃん相談 (三カ月児)

▽内容 医師による診察、計測、生活指導、栄養指導。

▽用意するもの 母子健康手帳、換えオムツ、バスタオル。

▽日程

- 1月25日：登別公民館(受付/12時/12時15分、対象/登別、登別温泉地区の昭和54年9月、10月、出生児)
- 1月30日：中央公民館(受付/11時15分/11時30分、対象/中央地区の昭和54年10月出生児)
- 1月31日：警別公民館(受付/11時15分/11時30分、対象/警別地区の昭和54年10月出生児)

股関節脱臼検査

○対象児 生後三カ月以上六カ月未満の乳児

○実施日・場所 一月二十三日

不用品 ダイヤル市

5局2111内線257

おわけします(売り)

ロッキングチェア、うば車(2人用)、冷蔵庫、ステレオ、テレビアンテナ、ポット式石油ストーブ、温風式石油ストーブ、ホームタンク(備付)、あみ機、足踏式、シンク、ガス台、写真現像機、器具一式。

ゆずってください(買い)

二段ベッド、ベビーベッド、長イス、ゆりかご、婦人用自転車、電気オルガン、ピアノ、カラーテレビ、バスオール、工業用ミシン、電話機。

3歳児 健康診査

医師、歯科医師、保健婦、栄養士による3歳児健康診査を、次により無料で行ないますので、対象者はもれなく受診してください。

○健康内容 心身の発育状況、歯科検診、栄養指導、生活指導。

○対象児 昭和51年9月1日から

月日	実施場所	受付時間	対象地区
2月2日	登別公民館	10:00~11:00	登別、温泉、中登別、富浦、登別東町、登別本町、登別港町、カルルス、千歳、常盤、中央、幌別、川上、若山、新栄、青葉、片倉
2月5日	商工会館	10:00~14:00	柏木、札内、緑、桜木、新川、富士、鉦山、来馬
2月27日	中央公民館	10:00~14:00	美園、若草、富岸、栄、大和、上登別、警別
2月28日	警別公民館	10:00~14:30	別

昭和55年度 郵便貯金 婦人モニター募集

- 募集人員 道内110名
- 委嘱期間 昭和55年4月1日から1年間
- 募集期間 昭和55年1月4日から1月31日まで(当日消印有効)
- 応募方法 郵便はがきの表面に住所、郵便番号、氏名、年齢、および電話番号を記入し、裏面には郵便貯金婦人モニターに応募された動機(または、貯蓄に関する感想)、および各種モニターの経験の有無(モニターの名称も記入)を記入し、お近くの郵便局あてにお出してください。
- 発表 郵政省貯金局長の委嘱状をお送りして発表にかえます。
- 謝礼 年額5,000円(予定)
- 問い合わせ先 登別郵便局(電話5局4427)

郵政省が、郵便貯金事業の制度業務の内容などについての意見や要望を利用者から収集して、これを業務内容の改善やサービスの向上に役立てる目的で、毎年度実施している郵便貯金婦人モニターの募集を、昭和55年度も次の要領により募集します。

○応募資格 20歳以上の女性で、郵便貯金を利用している方。(ただし、部内職員およびその家族は応募できません。)